



つばさ

多摩市立聖ヶ丘小学校
特別支援教室 つばさ
令和 7 年 2 月 14 日
つばさだより 第 13 号

「小集団指導（グループ指導）」で学び合う場面

「特別支援教室」の授業では指導の個々の必要性に応じて少人数（3～6名程度）での小集団指導を行っています。自己認知、他者認知、状況理解、行動調整、状況共有等々子供たちの個々の課題は多岐に渡りますが、お互いの学び合いの機会を設定していく中で、それぞれの小集団の中では様々な学び合いの場面が出てきます。今日はその場面を簡単に紹介します。

低学年・トランプ（神経衰弱）での場面・・・ゲームでのルール理解や状況理解、自己の勝敗の受け入れ、手先のカードさばきの感覚の指導等によく用いられるカードゲームの場面です。今回は4名での指導場面で、カードの枚数も子供に応じて少し減らした形で行いました。個人戦でもあるので、当然ペアが取れた取れないの場面が出てきます。その状況を教師は整理したり調整したりしていくわけですが、その日はメンバーのA君がペアを取れないでいました。すると隣席のB君がこそっと「A君がんばって」と声をかけていました。この場面をさりげなく取り上げ、小集団では共有しました。「相手への気遣い」や「優しさ」という「粹」がリアルに学び合える場面となりました。また、このゲームでは結局A君は自分のペアを取ることができませんでした。かなりがっかりという雰囲気もありましたが、A君は取り乱すことなく静かにゲームを終えました。そしてこの場面、指導のまとめでは「勝敗の受け入れ」や「友達とのゲーム場面での振る舞い」という価値付けにもつながっていきます。A君の振る舞いは自分自身の行動調整の仕方を学ぶと同時に、他の3人の学びへともつながり、よい学び合いの時間となりました。

「変化」の季節と子ども達・見通しと大人の理解

大人の世界では「逃げる二月」に入りました。ただ、1月から4月は変化の行事も多く、他の月よりも慌ただしく過ぎていく感じがするのかもしれません。子供の世界では学年末に向けた学習のまとめ。進級や進学に向けた日々の動きなどが始まっていきます。この期間、人によってはいつも以上の「刺激」や「緊張」を受けているのかもしれません。こうした流れの中で何となく大人も知っておきたいのは「変化」を受け止めていくにも大なり小なりの「個人差」があるということでしょうか。生活の中での表出の仕方や自分の中での処理のされ方にも違いが出てくるのだと思います。（例えば、先日終了したプール指導なども、時程の変更や一日の疲労バランスに影響はしていると感じます。）ある人にとってはそれとなく過ぎていくかもしれませんが、ある人にとっては気持ちや感覚のバランスを崩しやすいものかもしれません。ただ、特にこうした「変化」が続く時に不具合はでやすいと思います。子供と大人を比較した際に「見通し」という部分では大人が経験上多くのスキルをもっています。何か小さな「変化」が子供たちに生じた際には、「大丈夫だよ」と安心させてあげたり、この「変化」の時期によるものかなと理解をしてあげたりしながら変化への季節を乗り越えていければいいなと思います。

つばさ文庫・本の紹介「特別支援教育が教えてくれた発達が気になる子の育て方」

著者 平熱（Heinetu）かんき出版

特別支援学校で働く現役の先生が「特別支援教育は全人類に有効です」と銘打ち、わかりやすく多様な視点や価値観で、特別支援教育について大人や子供に、ヒントをたくさん教えてくれる内容になっています。「どうしてできないんだ!」じゃなく、「どうやったらできるかな?」を考えていく特別支援教育ってさ、いこうじゃない?」平熱先生の言葉に共感です。（Xフォロワー6.9万人）

